

- ・パリの「夜回り先生」
- ・当院のセミオープンシステム
- ・オフタイム
「美容院での至福の時」

パリの「夜回り先生」 特別寄稿 東北大学法学部研究科教授 水野紀子さん



「夜回り先生」として有名な水谷修さんという方がいるが、これは彼の話ではない。家にいられず路上に出てくる青少年は、日本にもパリにもいる。彼らを支えるためには、支援者は彼らのいる路上に出て行かなくてはならない。日本の「夜回り先生」は個人がボランティアで行う路上パトロールであるが、パリでは、公費で組織的に行われている。具体的にはNPOが担っており、そのひとつであるArc75というNPOを、今年2月に訪問調査した。NPOといっても、日本のNPOと違ってはかたにしっかり組織されていて、運営費は原則として公費つまり税金による。

Arc75の本部で仕事の説明を受けた後、活動の実際も見せてもらった。北駅で待ち合わせた「夜回り先生」は、一見、薑(とう)の立ったヤンキー風の女性であったが、話してみると、インテリのプロフェッショナルである。日本にはない、児童虐待などの病理に対応できる訓練を積んだ「特別教育士」という資格がある。エマニュエルと名乗った彼女もこの資格を持つ人で、ヤンキー風の外見は、対象となる青少年が近づきやすいためだったのだろう。

エマニュエルと話しながら、パリの北駅や東駅、その周囲にある公園などを歩いた。公園も、リュクサンブール公園と違い、一人ではとても足を踏み入れる気になれない治安の悪そうな公園で、ベンチを占領する、定職のない「移民仲間」たちは、こちらにガンを飛ばしてくる。エマニュエルがたむろしている青少年たちと直接、話をする現場は見られなかったが、顔なじみらしい彼らに「後でね」という合図を送っていた。

フランス人は、アントル・ギメつまり「」で囲まれた「括弧付き」のポキャブラリーを表現するときに、両手の人差し指と中指を曲げる。その表現で、エマニュエルは「私は、彼らの”仕事”を邪魔しないの」と言い、その「仕事」とは、つまり売春と麻薬売買と泥棒(!)である。「私たちはあくまでも社会福祉で、警察と違うから」と言う。青少年たちに近づくときも、教育士としてではなく、エマニュエル個人として近づき、親しくなってから、まともな学習や仕事につなぐ援助をするのである。そしてエマニュエルたちの「基地」は、契約している街中のカフェで、親しくなった青少年たちをそこに連れ込んで話をする。そのカフェにも案内されたが、そこには彼女の仕事仲間の臨床心理士が待機していた。精神的に問題を抱えた青少年に対応するためには、臨床心理士の存在も不可欠なのだろう。

エマニュエルは「売春をする少女たちは、自分を大切に尊厳をもてずに育っているから、一概に被害者とは言えないの。性的な動機でも自分を必要としてくれる男を、彼女たち自身が求めている側面がある。でもそんな男たちはろくでもないから、三日で殴り始めるのだけれど」と語る。そして少女たちが妊娠してしまって、エマニュエルに相談すると、不法移民の少女たちでも診てくれる医者連れて行く。

このような「夜回り先生」の活動とそれを支える体制は、厳しい取り締まりや道徳的説教の対極にある。次から次へと終わりのない仕事であるとエマニュエルは嘆息していたが、それでも彼女たちの活動は、確実に青少年たちを救っている。ご存じの通り、日本の社会保障は貧弱で、とくに子どもや育児にかかる費用が著しく薄い。命の危険のある児童虐待すら人手不足で救えない日本の現状からは、公的な「夜回り先生」の実現は、残念ながら、当分、望めないだろう。



当院のセミオープンシステム

「お話しする時間がある」ことこそ・・・

看護師 早坂 恵

“妊婦検診は通院が便利な診療所で、お産は設備が整った分娩施設で”これは2005年から行われている仙台市独自のセミオープンシステムです。診療所は平日の午後や土曜日も受診可能ですし、待ち時間が少ないです。総合病院は医療施設が整っていることや複数の医師がいるため、時間外の緊急時の対応が出来ます。勤務医師不足に考慮しつつ、それぞれの特徴を活かすことで、妊婦さんの負担を少しでも軽減しようと考えられたシステムです。

当院では、セミオープンシステムを利用されている妊婦さんは現在約100名いらっしゃいます。医師による妊婦検診が終了した後に、妊婦さんとはばらくお話しする時間を取っています。お話の内容は様々です、妊婦さんからの質問は、不安に思っていること、身体的なこと、精神的なことなど色々です。「胎動って?」「お腹が張るってどういうこと?」「体重増加の悩み」「つわりの辛さ」「母乳育児への不安」「夫との関係」「家族との関係」・・・、専門的な事から日常生活の事まで様々です。

先日当院での妊婦検診を終了された妊婦さんからお手紙を頂きました。手紙の中には『つわりや様々なマイナートラブル、妊娠・出産への不安を持ちながらも、検診にくる度にスタッフの皆様の対応に励まされ、もう少し頑張ってみようかなという気持ちになって帰ることが出来ました・・・スタッフの皆様は妊婦さんにとって大切な相談相手になっていると思います・・・』と。この手紙は、私達の役割や求められている事を再認識させてくれました。少しの時間ではありますが、この【お話しする時間がある】ことこそが、妊婦さんにとって大切なのですね・・・。少しでも快適で穏やかな妊娠期間を送れるよう、お手伝いさせて頂きたいと思っております。「体重増加しすぎ」や「つわりの辛さ」は私も経験済みです(笑)。他の看護師もそれぞれ、「帝王切開で出産」「食べつわり」など経験済みですので、気軽にご相談ください。



私のオフタイム ～美容院での至福の時～

看護師主任 小林美和子

髪をショートにするようになってから、10年以上が経ちました。きっかけは、子どもが生まれ手がかかるようになり、猫っ毛の私は、髪の手入れまでゆっくり手が回らなくなってしまったためです。

ショートだと伸びてくる髪が気になるのも早くなり、だいたい2ヶ月に1度のペースで美容院に通うようになりました。気の知れたスタッフにヘッドスパをしてもらいこの美容院で過ごす時間が私にとっては、至福のひとつです。この時だけは、一瞬だけ忙しい日常から離れることができるので、毎回楽しみにしています。(^^)/



お気に入りのヘアケアグッズ

臨時休診

- GW はカレンダー通りの診療となっております。

編集後記

熊本での大地震では、多くの尊い命が奪われ、被害の拡大に心が痛みます。一日でも早く収まってくれるよう、祈るばかりです。

地震大国日本での原発稼働には限界があることを早急に認め、福島悲劇を二度と繰り返してはいけないと強く思う毎日です。



発行元：村口きよ女性クリニック

<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>

e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp